

2011年度キャリア・就職支援への取り組み調査

2011年6月



- 内容 大学等のキャリア・就職支援の実態調査
- 実施期間 2011年4月28日～2011年6月15日まで
- 調査対象 全国の大学・短期大学の就職支援担当部署・窓口
- 調査方法 アンケート用紙を全国の就職担当部署に弊社学校担当が配布の上、FAX若しくは直接回収。
- 回答属性データ

カテゴリー	国公立	私立	全体
学校別回答数	85	305	390
キャンパス別の回答数	11	31	42
総計	96	336	432

※キャンパス別とは・・・同じ大学でも就職窓口が個別に存在し、独自の支援を行っているケースがあるため、一回答として集計した。

学校所在地	国公立	私立	全体
北海道	6	15	21
東北	10	20	30
関東	12	123	135
甲信越	6	10	16
東海	8	29	37
北陸	4	4	8
関西	18	57	75
中国・四国	19	34	53
九州	13	44	57
総計	96	336	432

大学	372	女子大学	49	短期大学	11
----	-----	------	----	------	----

質問事項 ※FAは自由記入の意

1) 2012年卒向け学内ガイダンスについて	開催回数の増減 開催時期の変動	学生のトータル参加人数の増減 ガイダンスの開始時期
2) 2012年卒向け学内企業説明会について	開催日数の増減 開催時期の変動 3月以前トータル参加企業数の増減	学生のトータル参加人数の増減 学内企業説明会の開始時期 4月以降の開催日数の増減
3) 2013年卒向け就職ガイダンスの予定について	開催回数の増減 ガイダンスの開始時期	開催時期の変動
4) 2013年卒向け企業を招いて実施する業界研究セミナーの予定について	開催回数の増減 開催時期の変動	2012年卒の実施実績 業界研究講座の開始予定時期
5) 2013年卒向け学内企業説明会の予定について	開催回数の増減 招致企業への案内時期の変動 招致企業など運営面において倫理憲章変更の影響	開催時期の変動 学内企業説明会の開始予定時期
6) 2013年卒の理想的な就職スケジュールについて	理想とする就職スケジュール(広報開始時期 選考開始時期)	
7) 2013年卒学生対象の倫理憲章や就職情報各社の取り組みについて	広報開始時期の変更に対する評価 ブックマーク機能停止に対する評価	広報期間短縮による学生への影響
8) 低学年次のキャリアガイダンスについて	倫理憲章の変更による低学年次キャリアガイダンスへの影響 低学年次のキャリアガイダンス実施 開催回数の増減 開催回数の増減の主な理由(FA) 正規のキャリア科目の設置・運営への関わり	開催時期の変動 低学年ガイダンス開始時期 キャリア支援サイトの必要性
9) インターンシップについて	倫理憲章の「就業体験としてのインターンシップの在り方」への評価 インターンシップ受入企業増減予測 大都市圏と地方の機会格差	
10) 2012年卒・2013年卒の就職支援について	2012年卒・2013年卒の就職支援について(FA)	

■ 本資料について ■

資料のご利用やご質問等に関しては下記までご連絡ください。
株式会社 毎日コミュニケーションズ 就職情報事業本部 HRリサーチセンター
TEL: 03(6267)4571 / E-mail: hrrc@mvcom.co.jp

□調査結果 概要

■1) 2012年卒向け就職ガイダンスについて (P3)

2012年卒向け学内就職ガイダンスは大学側も厳しさを認識して、開催回数を「増やした」が28.5%、「前年並み」が70.1%と、昨年に引き続き増加傾向にある。学生の参加人数は「増えた」とする大学が33.4%ある一方で、参加人数が「減った」とする回答も12.1%と前年より6.5pt増加しており、大学によっては苦戦するケースも出始めているようだ。開催時期は「早めている」大学が対前年比16.4pt減少して11.6%と、前倒しの傾向に歯止めが掛かっている。開始時期は私立を中心に前年と変わらず4月が31.0%で最も多かった。

■2) 2012年卒向け学内企業説明会について (P4)

学内の企業説明会も「増やした」が20.3%、「前年並み」が75.6%と依然増加傾向にある。今期はトータルの参加企業数も企業の積極的な採用意欲に後押しされ、「増えた」が対前年5.6pt増の26.9%、「減った」が10.0pt減の16.9%と増加傾向に転じている。ただし、ここでも学生の動員において「増えている」が対前年14.6pt減の34.8%となる一方で、「減った」が対前年12.2pt増の18.8%となるなど、参加人数の低下に悩む大学も増えてきている。学内で開催される企業説明会の開始時期は私立を中心に2月が37.0%と最も多い。国公立の場合は12月32.5%をピークとして年内10-12月に開始する割合が高い。

■3) 2013年卒向け学内ガイダンス・業界研究セミナー・学内企業説明会の予定について (P6)

2013年卒向けの就職ガイダンスは開始時期そのものは4月が30.5%と2012年卒と変わらないものの、開催回数を「増やす予定」が20.0%、「前年並み」が73.7%と、来期も増加傾向にある。学内企業説明会については開始時期を「遅らせる予定」が19.5%と、「早める予定」の4.1%を大きく上回り、日本経団連の倫理憲章変更に伴う早期化是正の動きにあわせて、12月以降に実施する割合が増加している。具体的な開始予定時期でも、2012年卒では11月以前に実施していた割合の合計が28.4%あったが、2013年卒では15.9pt減の12.5%にまで減少している。結果、国公立中心に12月に開始する割合が上昇している。(12年卒12月:22.7%→13年卒12月35.9%) 通常、学内企業説明会より前に職業観涵養を目的として実施する「企業を招いて実施する業界研究セミナー」も、「遅らせる予定」が16.2%と「早める予定」の6.2%を上回っており、後ろ倒しの傾向にある。これも倫理憲章に賛同する企業が12月以前の学内行事に参加しないことを表明している為、遅らせざるを得ない事情もある。とはいえ、学生には様々な業界の認知や理解を深めさせたい大学としては悩ましい状況となっている。実際の開始予定時期としては10月の24.3%が最も多く、以降11・12月へと続いている。

■6) 理想的な就職スケジュールについて (P9)

理想的な採用スケジュールとして広報開始時期と選考開始時期を聞いてみたところ、広報開始時期は2013年卒から変更となる12月が30.8%と最も高く、次いで卒業年次に達した4月が13.4%、これまでの広報開始時期と同様の10月が13.1%となっている。選考開始時期については現行の卒業年次4月が34.7%と最も高く、続いて夏休み期間となる8月が17.5%となっている。広報活動から選考活動までの期間の平均値を計算してみると、4.1ヶ月となった。(国公立4.5ヶ月、私立3.9ヶ月) この理想の採用スケジュールを理系大学25校の回答だけで集計してみると、広報開始12月48.0%、選考開始4月56.0%に集中する結果となっている。特に選考開始時期において、卒業年次5月以降の回答が少ないのは、学生の卒業研究の時間を確保する為、早めの選考が望ましいと考えていると推測される。

■7) 2013年卒学生対象の倫理憲章や就職情報各社の取組みについて (P10)

倫理憲章の広報開始時期の変更に対する評価は「(大いに+一定の)評価をする」76.3%と、概ね肯定的な回答となっている。倫理憲章の変更に伴う影響について各フェーズ別に見てみると、自己分析・筆記試験対策など就職活動の準備期間に実施するものにはプラスに作用すると考えられるものの、広報期間が短縮されることで、業界・職種研究、企業研究などの企業との直接接点で深めていく活動はマイナスに作用していることがわかる。また、日程的に後期試験と企業セミナー解禁が重複することから、マイナスに作用すると考える割合が高くなっている。

■8) 低学年時からのキャリアガイダンスについて (P11)

大学の設置基準変更によるキャリア教育の必須化やに伴い、大学の1・2年次からキャリアガイダンスを「実施している」大学は私立を中心に対前年4.8pt増の74.8%と拡大している。このキャリア教育に関して、具体的に大学内の授業内で正規のキャリア科目の設置・運営に、キャリアセンターや就職課が関わっているかどうかについては、6割ほどの大学で協力体制を構築し始めていることがわかる。

■9) インターンシップについて (P12)

倫理憲章内「就業体験としてのインターンシップの在り方」を提示したことについては「(大いに+一定の)評価をする」が84.8%と、評価が高い。一方で、インターンシップの定義を厳しくしたことから、インターンシップの受入れ企業数は「減少予測」が26.9%と、「増加予測」の13.2%を上回っている。

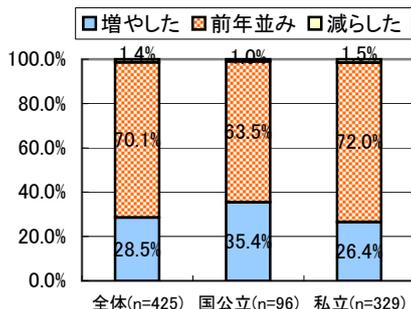
1)2012年卒向け就職ガイダンスについて

開催回数の増減	全体(n=425)	国公立(n=96)	私立(n=329)	参考:昨年全体
増やした	28.5%	35.4%	26.4%	36.8%
前年並み	70.1%	63.5%	72.0%	62.0%
減らした	1.4%	1.0%	1.5%	1.2%

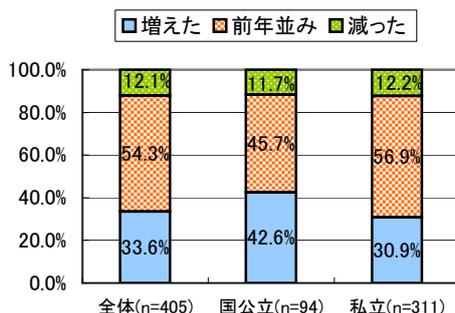
学生のトータル参加人数の増減	全体(n=405)	国公立(n=94)	私立(n=311)	参考:昨年全体
増えた	33.6%	42.6%	30.9%	48.3%
前年並み	54.3%	45.7%	56.9%	46.1%
減った	12.1%	11.7%	12.2%	5.6%

開催時期の変動	全体(n=422)	国公立(n=96)	私立(n=326)	参考:昨年全体
早めた	11.6%	12.5%	11.3%	28.0%
前年並み	85.5%	86.5%	85.3%	71.8%
遅らせた	2.8%	1.0%	3.4%	0.3%

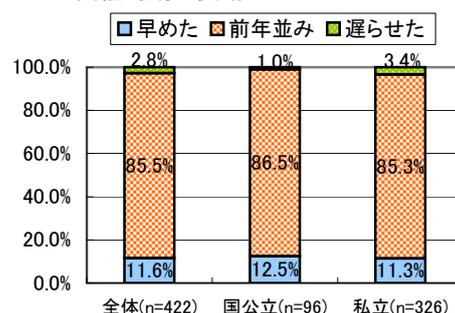
開催回数の増減



学生のトータル参加人数の増減



開催時期の変動



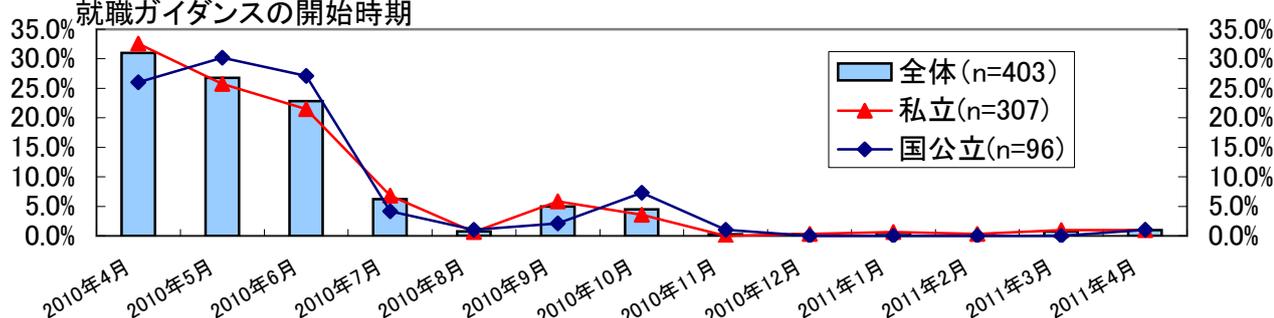
就職ガイダンスの開始時期

	全体(n=403)	国公立(n=96)	私立(n=307)
2010年4月	31.0%	26.0%	32.6%
2010年5月	26.8%	30.2%	25.7%
2010年6月	22.8%	27.1%	21.5%
2010年7月	6.2%	4.2%	6.8%
2010年8月	0.7%	1.0%	0.7%
2010年9月	5.0%	2.1%	5.9%
2010年10月	4.5%	7.3%	3.6%
2010年11月	0.2%	1.0%	0.0%
2010年12月	0.2%	0.0%	0.3%
2011年1月	0.5%	0.0%	0.7%
2011年2月	0.2%	0.0%	0.3%
2011年3月	0.7%	0.0%	1.0%
2011年4月	1.0%	1.0%	1.0%

集中時期の4-6月の内訳

	全体(n=403)	国公立(n=96)	私立(n=307)
2010年4月 上旬	14.9%	7.3%	17.3%
2010年4月 中旬	9.7%	11.5%	9.1%
2010年4月 下旬	6.5%	7.3%	6.2%
2010年5月 上旬	6.5%	8.3%	5.9%
2010年5月 中旬	11.9%	9.4%	12.7%
2010年5月 下旬	8.4%	12.5%	7.2%
2010年6月 上旬	11.4%	15.6%	10.1%
2010年6月 中旬	6.7%	8.3%	6.2%
2010年6月 下旬	4.7%	3.1%	5.2%

就職ガイダンスの開始時期



2)2012年卒向け学内企業説明会について

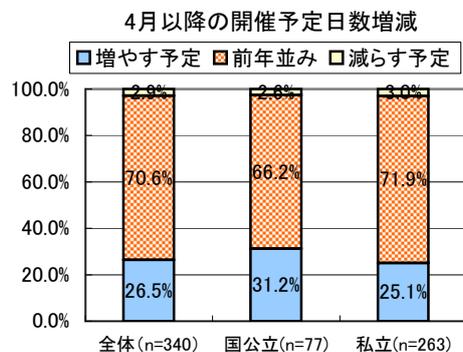
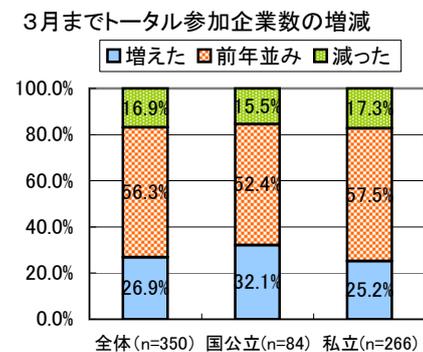
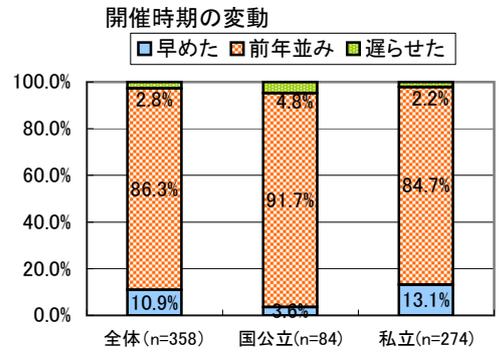
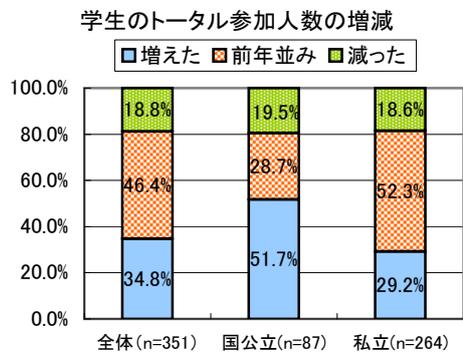
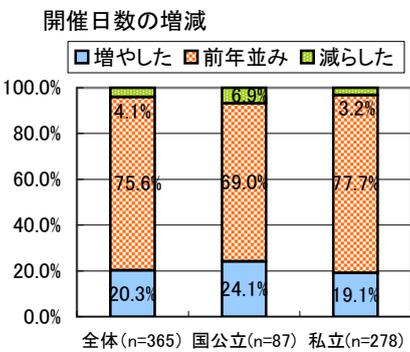
開催日数の増減	全体(n=365)	国公立(n=87)	私立(n=278)	参考:昨年全体
増やした	20.3%	24.1%	19.1%	20.6%
前年並み	75.6%	69.0%	77.7%	74.0%
減らした	4.1%	6.9%	3.2%	5.5%

学生のトータル参加人数の増減	全体(n=351)	国公立(n=87)	私立(n=264)	参考:昨年全体
増えた	34.8%	51.7%	29.2%	49.3%
前年並み	46.4%	28.7%	52.3%	44.1%
減った	18.8%	19.5%	18.6%	6.6%

開催時期の変動	全体(n=358)	国公立(n=84)	私立(n=274)	参考:昨年全体
早めた	10.9%	3.6%	13.1%	15.8%
前年並み	86.3%	91.7%	84.7%	82.9%
遅らせた	2.8%	4.8%	2.2%	1.3%

(前半3月まで)トータル参加企業数の増減	全体(n=350)	国公立(n=84)	私立(n=266)	参考:昨年全体
増えた	26.9%	32.1%	25.2%	21.3%
前年並み	56.3%	52.4%	57.5%	51.8%
減った	16.9%	15.5%	17.3%	26.9%

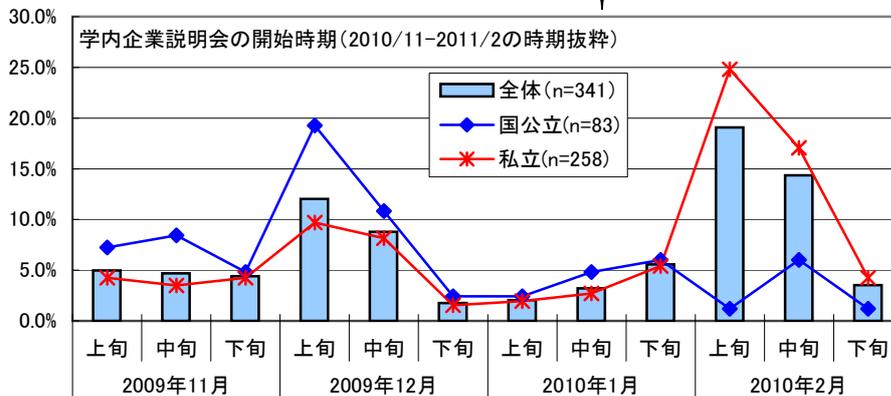
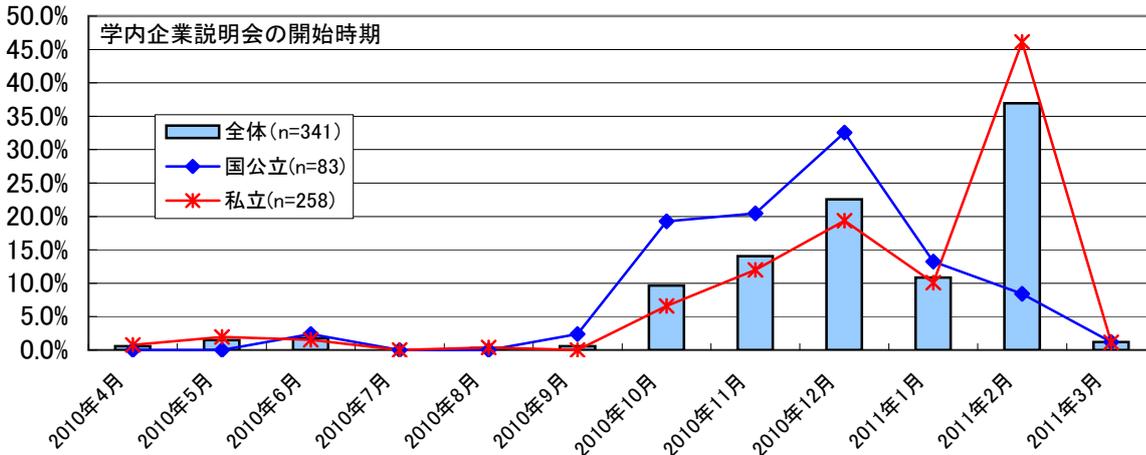
2011年卒向けの4月以降の開催日数増減	全体(n=340)	国公立(n=77)	私立(n=263)	参考:昨年全体
増やす予定	26.5%	31.2%	25.1%	38.7%
前年並み	70.6%	66.2%	71.9%	60.6%
減らす予定	2.9%	2.6%	3.0%	0.7%



2) 2012年卒向け学内企業説明会について

学内企業説明会の開始時期	全体(n=341)	国公立(n=83)	私立(n=258)
2010年4月	0.6%	0.0%	0.8%
2010年5月	1.5%	0.0%	1.9%
2010年6月	1.8%	2.4%	1.6%
2010年7月	0.0%	0.0%	0.0%
2010年8月	0.3%	0.0%	0.4%
2010年9月	0.6%	2.4%	0.0%
2010年10月	9.7%	19.3%	6.6%
2010年11月	14.1%	20.5%	12.0%
2010年12月	22.6%	32.5%	19.4%
2011年1月	10.9%	13.3%	10.1%
2011年2月	37.0%	8.4%	46.1%
2011年3月	1.2%	1.2%	1.2%

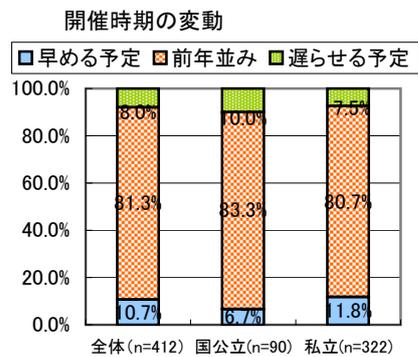
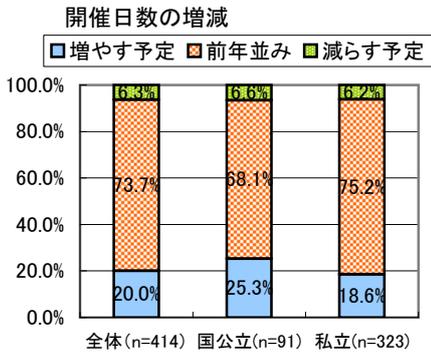
集中時期の11-2月の内訳	全体(n=341)	国公立(n=83)	私立(n=258)	
2009年11月	上旬	5.0%	7.2%	4.3%
	中旬	4.7%	8.4%	3.5%
	下旬	4.4%	4.8%	4.3%
2009年12月	上旬	12.0%	19.3%	9.7%
	中旬	8.8%	10.8%	8.1%
	下旬	1.8%	2.4%	1.6%
2010年1月	上旬	2.1%	2.4%	1.9%
	中旬	3.2%	4.8%	2.7%
	下旬	5.6%	6.0%	5.4%
2010年2月	上旬	19.1%	1.2%	24.8%
	中旬	14.4%	6.0%	17.1%
	下旬	3.5%	1.2%	4.3%



3) 2013年卒向け就職ガイダンスの予定について

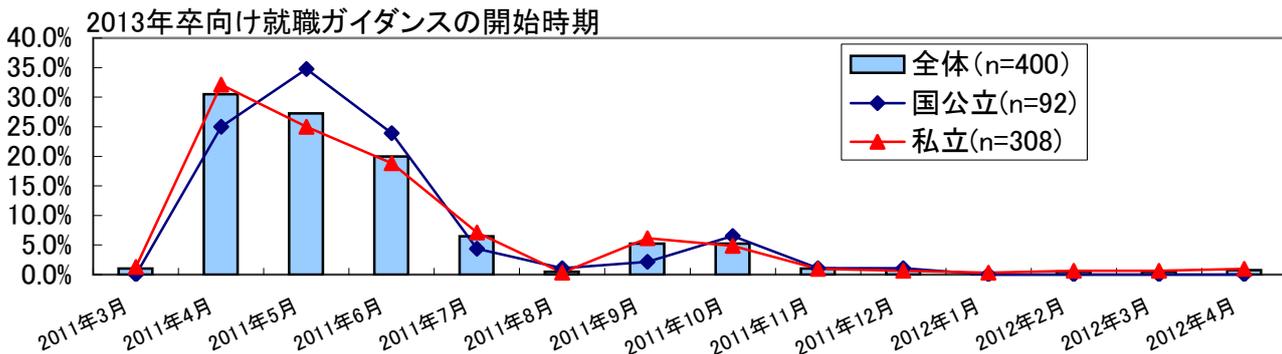
開催日数の増減	全体(n=414)	国公立(n=91)	私立(n=323)
増やす予定	20.0%	25.3%	18.6%
前年並み	73.7%	68.1%	75.2%
減らす予定	6.3%	6.6%	6.2%

開催時期の変動	全体(n=412)	国公立(n=90)	私立(n=322)
早める予定	10.7%	6.7%	11.8%
前年並み	81.3%	83.3%	80.7%
遅らせる予定	8.0%	10.0%	7.5%



2013年卒向け就職ガイダンスの開始予定時期	全体(n=400)	国公立(n=92)	私立(n=308)
2011年3月	1.0%	0.0%	1.3%
2011年4月	30.5%	25.0%	32.1%
2011年5月	27.3%	34.8%	25.0%
2011年6月	20.0%	23.9%	18.8%
2011年7月	6.5%	4.3%	7.1%
2011年8月	0.5%	1.1%	0.3%
2011年9月	5.3%	2.2%	6.2%
2011年10月	5.3%	6.5%	4.9%
2011年11月	1.0%	1.1%	1.0%
2011年12月	0.8%	1.1%	0.6%
2012年1月	0.3%	0.0%	0.3%
2012年2月	0.5%	0.0%	0.6%
2012年3月	0.5%	0.0%	0.6%
2012年4月	0.8%	0.0%	1.0%

集中時期の4-6月の内訳	全体(n=400)	国公立(n=92)	私立(n=308)	
2011年4月	上旬	13.0%	8.7%	14.3%
	中旬	11.8%	10.9%	12.0%
	下旬	5.8%	5.4%	5.8%
2011年5月	上旬	5.8%	9.8%	4.5%
	中旬	11.8%	12.0%	11.7%
	下旬	9.8%	13.0%	8.8%
2011年6月	上旬	11.0%	14.1%	10.1%
	中旬	4.8%	6.5%	4.2%
	下旬	4.3%	3.3%	4.5%



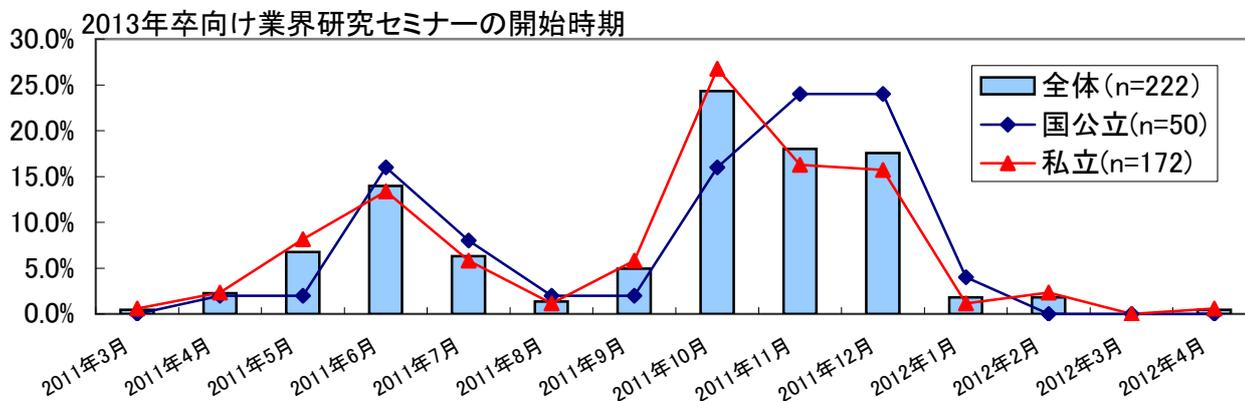
4) 2013年卒向け企業を招いて実施する業界研究セミナーの予定について

開催回数の増減	全体(n=270)	国公立(n=60)	私立(n=211)
増やす予定	18.5%	20.0%	18.0%
前年並み	74.2%	66.7%	76.3%
減らす予定	7.4%	13.3%	5.7%
12年卒の実施実績業界・職種数:1校平均	9.4	10.9	8.8
12年卒の延べ実施実績回数:1校平均	8.8	6.9	9.4

開催時期の変動	全体(n=259)	国公立(n=57)	私立(n=202)
早める予定	6.2%	0.0%	7.9%
前年並み	77.6%	71.9%	79.2%
遅くさせる予定	16.2%	28.1%	12.9%

2013年卒向け業界研究セミナーの開始予定時期	全体(n=222)	国公立(n=50)	私立(n=172)
2011年3月	0.5%	0.0%	0.6%
2011年4月	2.3%	2.0%	2.3%
2011年5月	6.8%	2.0%	8.1%
2011年6月	14.0%	16.0%	13.4%
2011年7月	6.3%	8.0%	5.8%
2011年8月	1.4%	2.0%	1.2%
2011年9月	5.0%	2.0%	5.8%
2011年10月	24.3%	16.0%	26.7%
2011年11月	18.0%	24.0%	16.3%
2011年12月	17.6%	24.0%	15.7%
2012年1月	1.8%	4.0%	1.2%
2012年2月	1.8%	0.0%	2.3%
2012年3月	0.0%	0.0%	0.0%
2012年4月	0.5%	0.0%	0.6%

集中時期の10-12月の内訳	全体(n=219)	国公立(n=49)	私立(n=170)	
2011年10月	上旬	5.4%	2.0%	6.4%
	中旬	12.2%	6.0%	14.0%
	下旬	6.8%	8.0%	6.4%
2011年11月	上旬	10.8%	14.0%	9.9%
	中旬	6.3%	8.0%	5.8%
	下旬	0.9%	2.0%	0.6%
2011年12月	上旬	10.8%	10.0%	11.0%
	中旬	5.9%	12.0%	4.1%
	下旬	0.9%	2.0%	0.6%



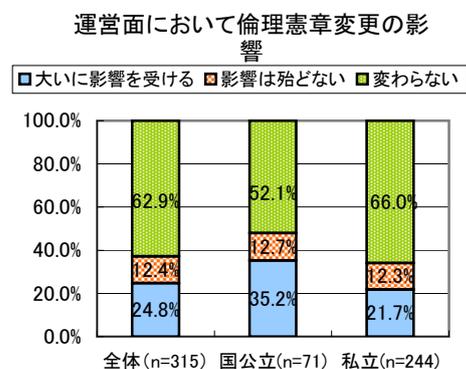
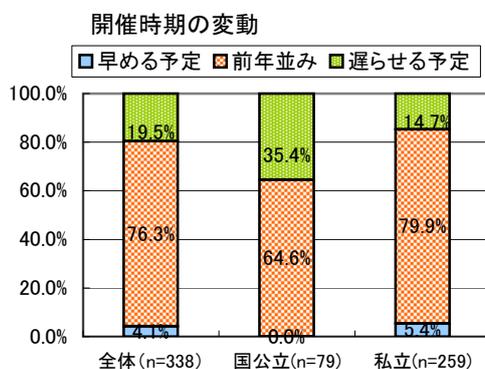
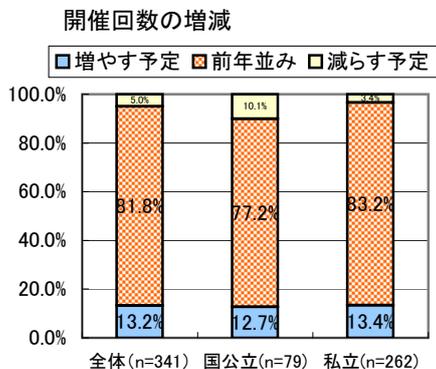
5) 2013年卒向け学内企業説明会の予定について

開催回数の増減	全体(n=341)	国公立(n=79)	私立(n=262)
増やす予定	13.2%	12.7%	13.4%
前年並み	81.8%	77.2%	83.2%
減らす予定	5.0%	10.1%	3.4%

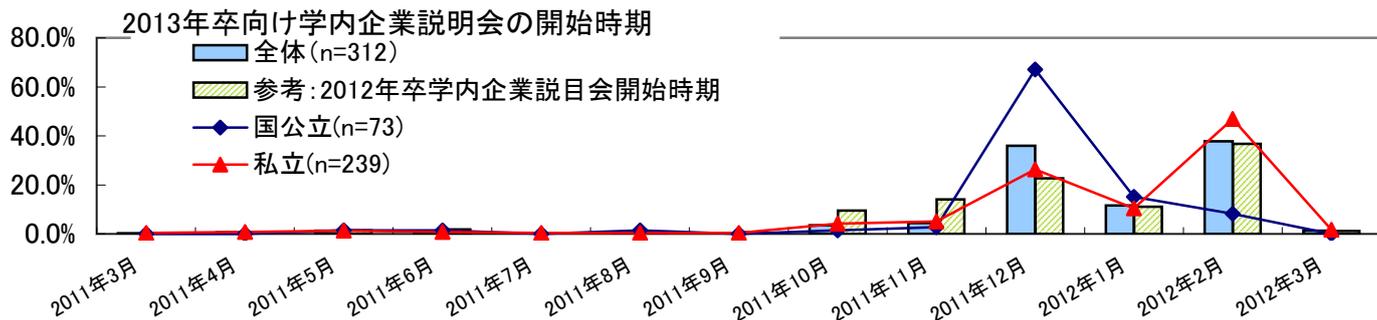
開催時期の変動	全体(n=338)	国公立(n=79)	私立(n=259)
早める予定	4.1%	0.0%	5.4%
前年並み	76.3%	64.6%	79.9%
遅らせる予定	19.5%	35.4%	14.7%

招致企業への案内時期の変動	全体(n=330)	国公立(n=74)	私立(n=256)
早める	18.8%	17.6%	19.1%
変わらない	72.4%	68.9%	73.4%
遅くする	8.8%	13.5%	7.4%

招致企業など運営面において倫理憲章変更の影響	全体(n=315)	国公立(n=71)	私立(n=244)
大いに影響を受ける	24.8%	35.2%	21.7%
影響は殆どない	12.4%	12.7%	12.3%
変わらない	62.9%	52.1%	66.0%



学内企業説明会の開始予定時期	全体(n=312)	国公立(n=73)	私立(n=239)	参考: 2012年卒学内企業説明会開始時期
2011年3月	0.3%	0.0%	0.4%	0.0%
2011年4月	0.6%	0.0%	0.8%	0.6%
2011年5月	1.3%	1.4%	1.3%	1.5%
2011年6月	1.0%	1.4%	0.8%	1.8%
2011年7月	0.3%	0.0%	0.4%	0.0%
2011年8月	0.6%	1.4%	0.4%	0.3%
2011年9月	0.3%	0.0%	0.4%	0.6%
2011年10月	3.5%	1.4%	4.2%	9.6%
2011年11月	4.5%	2.7%	5.0%	14.0%
2011年12月	35.9%	67.1%	26.4%	22.7%
2012年1月	11.5%	15.1%	10.5%	11.0%
2012年2月	37.8%	8.2%	46.9%	36.7%
2012年3月	1.3%	0.0%	1.7%	1.2%
2012年4月	1.0%	1.4%	0.8%	0.0%



6) 2013年卒の理想的な就職スケジュールについて

理想的な広報開始時期について

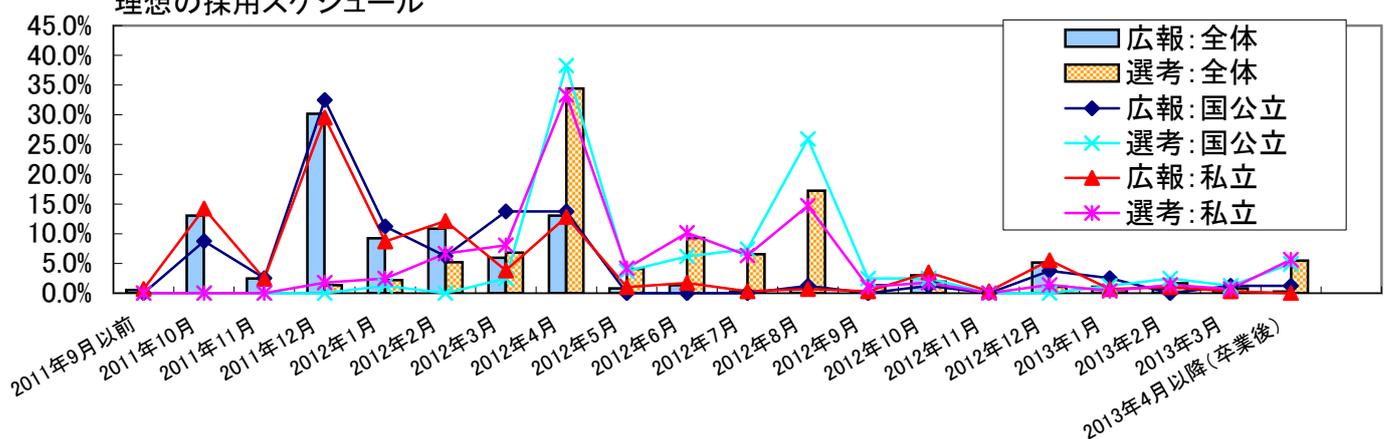
	全体(n=373)	国公立(n=81)	私立(n=292)	参考:理系大学(n=25)
2011年9月以前	0.5%	0.0%	0.7%	0.0%
2011年10月	13.1%	9.9%	14.0%	20.0%
2011年11月	2.4%	2.5%	2.4%	0.0%
2011年12月	30.8%	32.1%	30.5%	48.0%
2012年1月	9.1%	11.1%	8.6%	8.0%
2012年2月	10.7%	6.2%	12.0%	4.0%
2012年3月	5.9%	13.6%	3.8%	4.0%
2012年4月	13.4%	14.8%	13.0%	4.0%
2012年5月	0.8%	0.0%	1.0%	0.0%
2012年6月	1.3%	0.0%	1.7%	0.0%
2012年7月	0.3%	0.0%	0.3%	0.0%
2012年8月	0.8%	1.2%	0.7%	0.0%
2012年9月	0.3%	0.0%	0.3%	0.0%
2012年10月	2.7%	0.0%	3.4%	0.0%
2012年11月	0.3%	0.0%	0.3%	0.0%
2012年12月	4.8%	3.7%	5.1%	12.0%
2013年1月	1.1%	2.5%	0.7%	0.0%
2013年2月	0.8%	0.0%	1.0%	0.0%
2013年3月	0.5%	1.2%	0.3%	0.0%
2013年4月以降(卒業後)	0.3%	1.2%	0.0%	0.0%

理想的な選考開始時期について

	全体(n=372)	国公立(n=82)	私立(n=290)	参考:理系大学(n=25)
2011年9月以前	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2011年10月	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2011年11月	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2011年12月	1.3%	0.0%	1.7%	0.0%
2012年1月	2.2%	1.2%	2.4%	8.0%
2012年2月	5.1%	0.0%	6.6%	0.0%
2012年3月	6.7%	2.4%	7.9%	8.0%
2012年4月	34.7%	37.8%	33.8%	56.0%
2012年5月	4.0%	3.7%	4.1%	8.0%
2012年6月	9.4%	6.1%	10.3%	0.0%
2012年7月	6.5%	7.3%	6.2%	4.0%
2012年8月	17.5%	26.8%	14.8%	4.0%
2012年9月	1.3%	2.4%	1.0%	0.0%
2012年10月	1.9%	2.4%	1.7%	0.0%
2012年11月	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2012年12月	1.1%	0.0%	1.4%	0.0%
2013年1月	0.5%	1.2%	0.3%	0.0%
2013年2月	1.6%	2.4%	1.4%	0.0%
2013年3月	0.8%	1.2%	0.7%	0.0%
2013年4月以降(卒業後)	5.4%	4.9%	5.5%	0.0%

広報開始時期から選考開始時期までの平均期間	4.1ヶ月	4.5ヶ月	3.9ヶ月
-----------------------	-------	-------	-------

理想の採用スケジュール



7)2013年卒学生対象の倫理憲章や就職情報各社の取組みについて

広報開始時期の変更に対する評価	全体(n=415)	国公立(n=92)	私立(n=323)
大いに評価する	7.2%	5.4%	7.7%
一定の評価をする	68.9%	69.6%	68.7%
あまり評価しない	21.7%	23.9%	21.1%
全く評価しない	2.2%	1.1%	2.5%

プレサイト期間でのブックマーク機能停止に関する評価	全体(n=382)	国公立(n=87)	私立(n=295)
大いに評価する	6.0%	5.7%	6.1%
一定の評価をする	57.1%	60.9%	55.9%
あまり評価しない	33.2%	32.2%	33.6%
全く評価しない	3.7%	1.1%	4.4%

2013年卒学生向け倫理憲章の変更に伴う影響【各項目への影響】

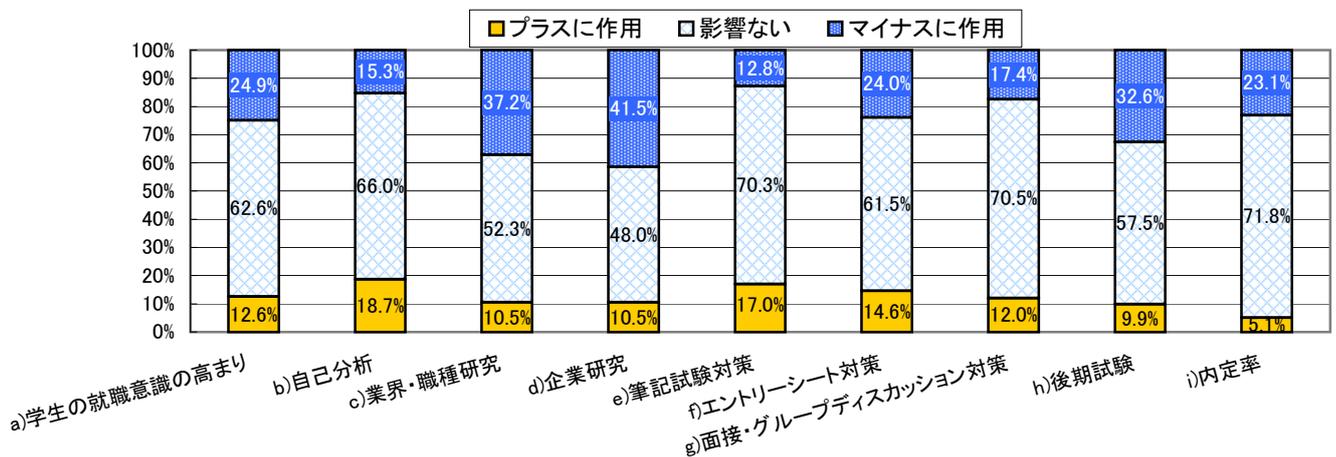
	a)学生の就職意識の高まり			b)自己分析		
	全体(n=413)	国公立(n=95)	私立(n=318)	全体(n=412)	国公立(n=93)	私立(n=319)
プラスに作用	12.3%	6.3%	14.2%	18.4%	15.1%	19.4%
影響ない	62.5%	64.2%	61.9%	66.0%	63.4%	66.8%
マイナスに作用	25.2%	29.5%	23.9%	15.5%	21.5%	13.8%

	c)業界・職種研究			d)企業研究		
	全体(n=415)	国公立(n=94)	私立(n=321)	全体(n=416)	国公立(n=94)	私立(n=322)
プラスに作用	10.4%	6.4%	11.5%	10.3%	7.4%	11.2%
影響ない	52.3%	46.8%	53.9%	47.8%	39.4%	50.3%
マイナスに作用	37.3%	46.8%	34.6%	41.8%	53.2%	38.5%

	e)筆記試験対策			f)エントリーシート対策		
	全体(n=414)	国公立(n=93)	私立(n=321)	全体(n=412)	国公立(n=93)	私立(n=319)
プラスに作用	16.7%	7.5%	19.3%	14.3%	8.6%	16.0%
影響ない	70.3%	79.6%	67.6%	61.7%	63.4%	61.1%
マイナスに作用	13.0%	12.9%	13.1%	24.0%	28.0%	22.9%

	g)面接・グループディスカッション対策			h)後期試験		
	全体(n=414)	国公立(n=94)	私立(n=320)	全体(n=412)	国公立(n=92)	私立(n=320)
プラスに作用	11.8%	6.4%	13.4%	10.2%	6.5%	11.3%
影響ない	70.5%	73.4%	69.7%	57.0%	63.0%	55.3%
マイナスに作用	17.6%	20.2%	16.9%	32.8%	30.4%	33.4%

	i)内定率		
	全体(n=397)	国公立(n=86)	私立(n=311)
プラスに作用	5.0%	1.2%	6.1%
影響ない	71.8%	79.1%	69.8%
マイナスに作用	23.2%	19.8%	24.1%



8) 低学年次のキャリアガイダンスについて

実施の有無	全体(n=417)	国公立(n=92)	私立(n=325)	参考: 昨年全体
実施している	74.8%	67.4%	76.9%	70.0%
実施していない	25.2%	32.6%	23.1%	30.0%

開催時期の変動	全体(n=319)	国公立(n=67)	私立(n=252)	参考: 昨年全体
早めている	11.6%	13.4%	11.1%	14.2%
前年並み	87.5%	85.1%	88.1%	84.1%
遅くしている	0.9%	1.5%	0.8%	1.7%

低学年ガイダンス開始時期	全体(n=287)	国公立(n=58)	私立(n=229)	参考: 昨年全体
大学1年前期	66.6%	66.7%	66.5%	66.2%
大学1年後期	9.9%	13.3%	9.0%	11.8%
大学2年前期	14.0%	8.3%	15.5%	13.9%
大学2年後期	8.9%	11.7%	8.2%	0.0%

トータル回数の増減	全体(n=314)	国公立(n=64)	私立(n=250)	参考: 昨年全体
増やしている	19.1%	20.3%	18.8%	21.5%
前年並み	79.9%	76.6%	80.8%	76.8%
減らしている	1.0%	3.1%	0.4%	1.7%

「低学年次のキャリアガイダンスの回数を変更した理由」を一部抜粋。 詳細は別紙資料を参照

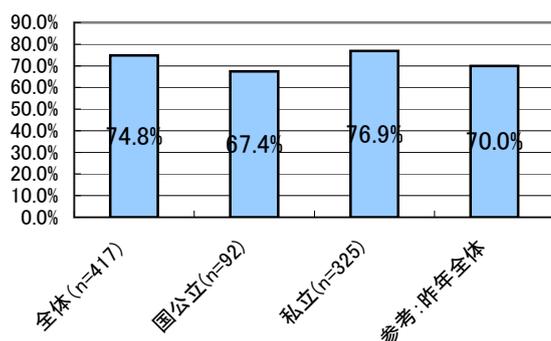
減らした	東北・国公立	ガイダンスの回数が多すぎると学生の主体性がなくなるため
	東海・私立	あれこれと行事をこれまで増やしてきたが、今年見直しの時期にしたいため。
増やした	東北・国公立	低学年次から厳しい就職環境を見つめキャリア意識を醸成するため
	東海・私立	今年度より「キャリア形成と職業」を1～3年まで単位化しました。
	関西・私立	キャリアガイダンスの実施が文科省からの指導項目になっているため。 また、大学の戦略(学生募集)として低学年次からの支援を充実させることが目的。
	九州・国公立	年次プロセスに応じたキャリア支援を実施する為、低学年向けガイダンスを実施。

正規のキャリア科目の設置・運営への関与	全体(n=417)	国公立(n=94)	私立(n=323)
関わっている	62.4%	66.0%	61.3%
関わっていない	37.6%	34.0%	38.7%

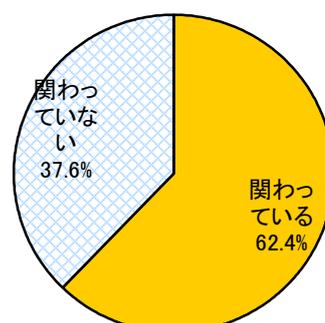
キャリア支援を目的としたサイトの必要性	全体(n=402)	国公立(n=86)	私立(n=316)
必要だと思う	85.1%	82.6%	85.8%
必要だと思わない	14.9%	17.4%	14.2%

倫理憲章変更による低学年次キャリアガイダンスへの影響	全体(n=406)	国公立(n=89)	私立(n=317)
影響する	8.1%	9.0%	7.9%
どちらともいえない	40.6%	40.4%	40.7%
影響しない	51.2%	50.6%	51.4%

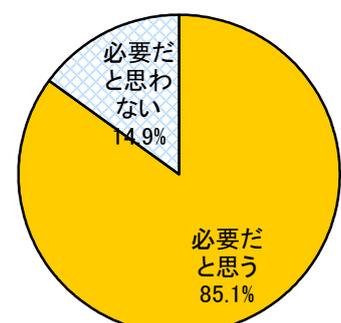
低学年次のキャリアガイダンスの実施有無



正規のキャリア科目の設置・運営への関与



キャリア支援を目的としたサイトの必要性



9) インターンシップについて

倫理憲章内「就業体験としてのインターンシップの在り方」提示についての評価

	全体(n=408)	国公立(n=94)	私立(n=314)
大いに評価する	10.0%	14.9%	8.6%
一定の評価をする	74.8%	71.3%	75.8%
あまり評価しない	13.2%	12.8%	13.4%
全く評価しない	2.0%	1.1%	2.2%

貴校学生のインターンシップ受入企業数の予測

	全体(n=401)	国公立(n=92)	私立(n=309)
増加予測	13.2%	10.9%	13.9%
前年並み	59.9%	63.0%	58.9%
減少予測	26.9%	26.1%	27.2%

貴校学生のインターンシップ参加人数の予測

	全体(n=402)	国公立(n=92)	私立(n=310)
増加予測	22.9%	16.3%	24.8%
前年並み	60.9%	62.0%	60.6%
減少予測	16.2%	21.7%	14.5%

大都市圏と地方のインターンシップ機会格差

	全体(n=375)	国公立(n=87)	私立(n=288)
拡大予測	26.1%	26.4%	26.0%
前年並み	65.3%	66.7%	64.9%
縮小予測	8.5%	6.9%	9.0%

	北海道(n=19)	東北(n=28)	関東(n=110)	甲信越(n=16)	東海(n=33)
拡大予測	26.3%	42.9%	24.5%	25.0%	3.0%
前年並み	57.9%	50.0%	63.6%	75.0%	90.9%
縮小予測	15.8%	7.1%	11.8%	0.0%	6.1%

	北陸(n=8)	関西(n=61)	中四国(n=46)	九州(n=54)
拡大予測	12.5%	27.9%	30.4%	31.5%
前年並み	62.5%	65.6%	58.7%	66.7%
縮小予測	25.0%	6.6%	10.9%	1.9%

10) 2012年卒・2013年卒の就職支援について

「2012年卒・2013年卒の就職支援について」は別紙にまとめている資料参照

7)低学年次のキャリアガイダンスを変更した理由 自由回答から一部抜粋

	エリア	学校区分	自由回答部分記載
減らした	東北	国公立	参加者数が少ないため
	東北	国公立	ガイダンスの回数が多すぎると学生の主体性がなくなるため
	東海	私立	あれこれと行事をこれまで増やしてきたが、今年見直しの時期にしたいため。
増やした	北海道	私立	早い時期からのキャリア教育を目指している
	東北	国公立	自分の目標や夢を明確に出来ない学生が増えているから。
	東北	国公立	低学年次から厳しい就職環境を見つめキャリア意識を醸成するため キャリア科目とキャリアガイダンスが相乗効果をもたらすような内容・時期・回数など、いずれも試行錯誤 中です。
	東北	私立	本人の情報収集・意思決定力が益々重要になってきているため。 人選の目が厳しくなっているため。
	関東	国公立	・プログラム内容に多様性を持たせ「気付く」機会を増やしたいため。 ・スタート時期の遅れてしまった学生のフォローアップもしたいため。
	関東	私立	・低学年次のキャリア形成支援の拡充 ・キャリアセンターに早期から親しむ機会を持たせる
	関東	私立	音楽大学の特性として、キャリアの問題を就職のためだけでなく、本格的に自分の将来を考える機会として提供したいから。
	関東	私立	学生の関心が高まっているため、その質問に対応していくため
	関東	私立	企業側の動きが見えないので、随時実施する予定。全ての就職支援企画が全学年対象として実施。
	関東	私立	基礎学力向を目的とした講座を取り入れた分、回数が増えている。
	関東	私立	就職ということに先んじて“学生生活の充実”を観点に、低年次よりコンピテンシーを基軸としたキャリア支援を実施。
	関東	私立	職業選択の幅が広がっている
	関東	私立	大学設置基準の関係
	関東	私立	低学年次にキャリアガイダンスを開催し、本格的な就職活動に向けて就職意識の高揚につなげ、ビジネスとは何か、今できることへの支援をする。
	関東	私立	日々の大学生活の重要性に気づき、早い段階から社会に出ることについて考えて欲しいから 昨年までは1・2年次を一緒にガイダンスを実施していたが、各々の学年にあった内容を説明するよう学年ごとの実施にしたため
	甲信越	国公立	本年度よりキャリアガイダンスと同等の内容で「キャリア開発Ⅰ」(授業科目)が始まったため、回数は増えている。
	甲信越	私立	できるだけ学生の多様な十強(進路支援が必要なポイント、属性、ガイダンス参加可能時間など)に対応するため。
	東海	国公立	1年生後期より「キャリアデザイン入門」という授業を新たに作った。しかし、低学年時のキャリアガイダンスは実施していない。
	東海	私立	今年度より「キャリア形成と職業」を1～3年まで単位化しました。
	東海	私立	早期からの就職に対する意識づけに多方面から講師を招いている 大学と地域の結びつきについて考え、視点を向け社会に参加することの足がかりとする
	東海	私立	本学のポテンシャルは早期から指導していかないと間に合わないと憂慮されたから。
	北陸	国公立	就業意識の向上と職業観の醸成を図るため
	関西	国公立	単位化になった為
	関西	私立	キャリアガイダンスの実施が文科省からの指導項目になっているため。 また、大学の戦略(学生募集)として低年次からの支援を充実させることが目的。
	関西	私立	キャリアに対する意識を低学年から自覚させて就業力を高めるため
	関西	私立	社会人基礎力を高める為には時間がかかるため。言い換えると学生時代に現状では身に付けられていないため。
	関西	私立	就業力育成支援事業としての取り組みする
	関西	私立	就職活動の実質的な短縮により、いわゆる「乗り遅れ」学生を減らすため、これまで新入生にのみ実施していたものを2年次、3年次にも実施するようにした。
	中国	国公立	早期から就職に対する意識付けをさせる必要性を感じた為。(1年生向けの実施はしていなかった)
	中国	国公立	低年次からのキャリア意識を醸成するため
中国	私立	職業意識の低下が著しいため	
九州	国公立	カリキュラム外で低学年次のキャリアガイダンスを2011年度、初めて実施するため。	
九州	国公立	年次プロセスに応じたキャリア支援を実施するため、低学年向けガイダンスを実施することにした。	
九州	私立	キャリア教育の重要度が増している為(教育内容の充実)	
九州	私立	今年度から文化芸術論を科目名としてキャリア支援講座を開講した。対象は全学年で年間15回開催	
九州	私立	就職というよりも社会人としての必要なスキルや姿勢を養うという意識を高めさせるため。 低学年次に対しては、今年度より実施する。(全10回予定)	
九州	私立	就職活動を視野に入れ、どのように充実した学生生活をおくるかというテーマで行う。	

9)2012年卒・2013年卒の就職支援についての意見。 自由回答から一部抜粋

エリア	学校区	自由回答部分記載
東北	国公立	震災の影響で、採用活動を遅らせて頂いた企業もある中、遅れた分を取り戻すように、一気に採用活動を行う企業があり、学生からとまどう声が聞こえています。 また、2013年卒は、12月サイトオープンでも採用活動が変わる企業と変わらない企業が出る事で、今年のような内定をもらっても、引き続き、就活を続ける学生が増えると思われ、学生の負担は避けられず、支援により力を入れる必要を感じます。
東北	国公立	就職活動にお金がかかり地方学生に厳しい状況
東北	私立	国公立・有名私大の出身者を大企業、有名企業はリクルーターとして出身大学へ派遣し、その他大多数の大学生が結果として、採用戦線から除外されてしまう。大企業にしてみれば効率的な採用活動が出来るだけ。
東北	私立	大震災の影響もあり就職活動についての情報が錯綜している。今後を予測することは難しく、情報収集が重要とな
東北	私立	特に2012年卒の就職支援について採用活動を継続している事業所の情報呈上を間断なくお願いします。
東北	私立	本学の場合、基礎学力の向上をはかることが最大の就職支援と考える。筆記試験の通過率を高めなければ、内定率の向上はありえない。学生の基礎学力の低下(特に読み書きソロバン)が著しい。基礎学力の向上は緊急の課題である。
東北	私立	如何に短期間で学生のモチベーションを上げるかが本学の課題です。
関東	国公立	(企業の広報開始時期が12月開始になったことについて)選考時期が変わらないのであれば意味はない。
関東	国公立	3年生の冬期休暇または4年生の夏季休暇に選考活動が終了することが望ましい。
関東	国公立	他校と交流できる機会を確保することも視野を広げる上で必要と考えています。
関東	私立	・本学独自のセミナーやガイダンスによって知恵を使い、いかに学生にインパクトある内容にするかが課題。 ・もはや均一化した各種セミナーは商品価値は薄い。
関東	私立	2012年卒は震災の影響、2013年卒は倫理憲章の変更により、就職活動スケジュールがこれまでと異なる。このことに不安を感じている学生も見られることから、まずは正確な情報提供に努めたい。
関東	私立	2012年卒は震災の影響により就活の期間が長くなると懸念している。6月以降のキメ細やかな対応が必要になってくると感じている。2013年卒はまだ手探りの状態で他美大での状況も見ながら設定していく。
関東	私立	3年終了時(1月一杯)は学業に専念させたいが本音であるが、現況はそれを許さない。学生個人個人の就業意識を2013卒向けには重視したい。2012卒向けには現況変化に対応した支援を行いたい。
関東	私立	企業の採用活動の時期が遅くなったため、事前に準備可能な自己分析や業界研究はプラスに作用すると思われるが、採用決定時期が遅くならない見通しのため、筆記試験対策など選考と同時進行しがちなものは期間が短いため、マイナスに作用してしまう恐れがある。
関東	私立	キャリアガイダンス(必修授業)×キャリアカウンセリング(個別相談)×就社力の3拍子で学生に対応しています。
関東	私立	サイトのオープンと企業と学生の接触をきっちりと切り離していれば、キャリア教育に必要な情報で早いものはあってもいい。本当にきっちりと切り離されていければの話だが、現実にはサイトのオープンが早いと企業の選考試験も早くなる状況でそれが問題となっていた。
関東	私立	学業優先、学事日程に配慮したスケジュール変更は評価するが、大学によって(3学期制など)スケジュールが異なるので、一律の日時を指定されることで逆に学業に支障が出ることに配慮して欲しい。
関東	私立	学生の偏差値をわきまえた支援が必要と考えます。立ち位置の認識が必要。
関東	私立	学内合同企業説明会は通年開催、各社単位で行う。
関東	私立	企業側には、学事日程を考慮したスケジュールにしていだければと思います。
関東	私立	企業様への求人依頼も重要ではあるが、学生個々人の実力アップにも努めたい
関東	私立	広報期間が短くなることで、意識の低い地方学生は競争に乗り遅れる。 選考開始を後倒しにしなければ問題解決にはならないと思う。
関東	私立	今の余裕のないシステムから、例えば「ギャップイヤー」なども十分に考えられるような「ゆるい」システムを作りたいですね。
関東	私立	採用活動状況を正確に告知してください。(休止からの再開など)
関東	私立	採用試験の準備期間が短くはなりましたが、学事日程への影響が少なくなったと思います。 その文本人達の頑張りによって内定率が上昇すると期待しています。 授業を気にせず集中して就活をしてもらいたいと考えています。
関東	私立	就職支援がキャリア支援に顔を変えて、就活の早期化につながらないように運営していただきたい。
関東	私立	「理想とする選考開始時期」について。【理系は6月～、文系は8月～】
関東	私立	大学としては、従来から10月・11月に就職ガイダンス、エントリーシート対策講座等の就職行事の大切な時期に就職情報会社による合同企業説明会を開催されてしまい、大変困っておりましたが、今年度から12月1日以降になりましたことは、大変評価できます。2日間に渡り数万人を集める合同企業説明会を開催する就職情報会社もあり、これらの学生のためという一点を省みない情報会社に対する反発から今回の結果となったことは明らかであります。就職情報会社の社会的責任の自覚が求められる「時」が到来したと思います。
関東	私立	大学の学事日程を考慮したかたちですすめていただけるとよいと思います。
関東	私立	大企業が採用時期を遅らせ、中堅、中小との時期がバッティングしてくる可能性が高いため、志望企業の選考については早めに第2、第3志望郡をリストアップすよう指導する必要がある。
関東	私立	地震や原発事故の就職への影響は多いにあると思いますが、倫理憲章やサイトの開始が早い遅いは、あまり関係ないのではないのでしょうか？
関東	私立	倫理憲章の広報活動繰り下げに伴い、就職支援もこれに遵守する。学生としても就活が短期集中になることで国家試験対策等の勉強に切り替えることが出来ると思う。

甲信越	私立	・大学生の内定後の承諾書の提出時期についても一定の申し合わせを設定してほしい。
甲信越	私立	広報開始時期が後倒しになっても選考開始時期がこれまでどおりなら、改悪と言えるのではないかと。選考開始時期も同様に2ヶ月程度後倒しにして欲しい。
東海	国公立	・就職活動の長期化、早期化が是正されることは望ましいが、何により学業・研究に支障のない範囲での就職活動スケジュールを望む。・倫理憲章を遵守し、各企業の採用・選考活動の足並みをそろえてほしい。
東海	国公立	大学生全員が満足できる就職活動の成果を得られる時代では既にある。キャリア教育が重要といわれるが、自ら考え、工夫し、行動できる学生は単なるキャリア教育では育たない。
東海	私立	3年生・4年生・卒業生と就活の幅が広がって指導も時間と手間がかかるようになった。それぞれに応じた求人情報の発信やカウンセリングの体制が必要であると思う
東海	私立	企業の求人のハードルはやや高くなっていると感じています。能力等により優れた人材を求めているようです。在学中に学生の質を上げることが重要課題と考えます。
東海	私立	広報期間が短縮されたことで益々学生の2極化が進む。企業の採用計画に対し、採用結果のデータを公表してほしい。(規模別、業種別に)
東海	私立	選考開始時期を大幅に遅らせてほしい。(学部4年生9月開始など)
東海	私立	全国の大学の共通見解をベースに、慎重に動くべき(大学もサイトも)
東海	私立	美術学部の学生は企業就職への動き出しが遅い。教育系学部の学生は早い段階から将来へ向いているため、2学部へ同時にキャリアガイダンスを行うことの難しさが今後の課題です。
東海	私立	倫理憲章について、企業がどれだけ守るか問題。
東海	私立	倫理憲章の変更により、広報開始時期を2ヶ月遅らせることは、学生の本分である学業に取り組めるなど評価できる一方で、選考時期が従来どおりとなると、多くの企業の新卒採用選考が一定時期に集中する為、学生は充分な業界、企業研究や志望動機が固まらないまま、同時期に複数の企業を受験する必要を迫られます。そのため、モチベーション維持が大変難しくなっていく、かつ最終選考においても厳選されるなか、内定を獲得できない学生のメンタル面のケアなど、ここの支援がより一層必要となります。
北陸	私立	マイナビ2013のオープンにあたりリリースされた文章にある「なぜ働くのか」「どう生きたいのか」を問いかける姿勢には共感します。卒業後の進路は企業への就職だけでなくボランティアやNPOもアリかもしれないと考える学生が増えるのだろうか？未曾有の大災害は若者の心にどう作用するのだろうか？
関西	私立	「スタート」を遅らせるなら「ゴール」も遅らせるべきではないでしょうか。今後の就職支援の重要課題は、人間力と行動力のアップ、職業観の育成かと思えます。
関西	私立	学生の働くこと、就職活動のモチベーションを低下させないサポート体制を強化しています。そこに向けて、求人を開拓すること(特に中堅・中小企業)が大きな課題となるため、各サイトにお力添えを賜りたい。
関西	私立	広報開始時期などよりも長期化を懸念しております。
関西	私立	昨日実施された平成23年度第一回全国就職指導ガイダンスに出席し、感じたが主役である学生と企業のことを真剣に考えているようには思えない。※インターンシップは、就職課の担当外のため記入なし。
関西	私立	早期化でなく長期化が問題。長期化が避けられないのであれば、選考開始を遅らせていただくしかない。
関西	私立	大学生のレベルをあげないと外国人に負ける。将来的には新卒一括採用はなくなると思う。2015年？
関西	私立	媒体誘導による就活に終止符を打ってほしい。全企業中一部しか載らないのであれば不要。学生の就業へのサポートをする媒体へと変化を願う。
中国	国公立	就職活動の開始時期の遅れにより、学生の就職活動の準備期間が短くなる。今後は学生の就業意識を高めるための企画や企業研究を深める機会を早期に設けることが重要になると考える。
中国	私立	卒業生の卒後の就職支援が大切と理解しているが、職務が増すばかりで、思うようにならず残念である
四国	国公立	とくに2013卒について、企業の選考時期を遅らせて、学生の応募機会を増やしてほしい。
四国	国公立	学生が落ち着いて勉強ができる環境を望みます。早過ぎる募集はマイナス。また、地方の学生は一日研修のような形は、インターンシップとして受けづらいです。
九州	国公立	従来3年次学生を対象に後学期から支援プログラムを実施してきたが、今年度から3年次に加え、未就活の4年次学生も対象に、前期(6月)からガイダンスを実施する。また、学内合同企業説明会を4月・12月に実施する。
九州	私立	サイトの開設時期をもっと遅らせてほしい。最低でも最終学年の4月。秋入学者のためにも(特に留学生)。
九州	私立	企業説明会や採用試験の日程が、平日開催が多いため講義を休まなければならない。土、日や祝日等に開催していただくと助かります。
九州	私立	就活のスタート及び採用試験(選考)などのスケジュールが予想できるものの、確信がもてない不安あり。
九州	私立	諦めず、内定を得るまで就職活動を継続するよう、学科の先生と協力して、相談や情報提供などを展開しています。低学年からのキャリア教育と保護者の理解と協力も大切と考えて科目の見直しや、保護者懇談会などを実施しています。